

令和8年度子ども議会本会議

開催日 令和8年(2026年) 8月7日(金)	会議時間	開会 午前 10時00分 閉会 午前 11時45分
会議場所 役場庁舎3F 町民ホール(議場)	記録者 こども未来課こども未来係 集落支援員 松田 ありさ	
出席者：田中町長、山本副町長、加藤教育長、総務課長、総務課参事、総務課係長、財政係長、企画環境課参事、町民生活課長、保健福祉課長、農政課長、国営農地再編推進室長、商工観光課長、都市建設課長、上下水道課長、上下水道課参事、議会事務局長、学校教育課長、高校教育課長、生涯学習課長、給食センター長、こども未来課長		
広報：勝木主事		
教委：CS 池田、小西主事(企画環境課)		
傍聴：11名		

議会内容

<開会行事>

1. ニセコ町議会議長あいさつ(青羽議長)

おはようございます。只今ご紹介いただきました、議長の青羽と申します。本日は子ども議会ということでお招きいただきましてありがとうございます。

皆様方はまだ夏休み期間中ということで、大変お疲れ様でございます。夏休み、十分に楽しんでいる暇もなかったのかもしれないなと思って、ちょっとかわいそうだなという気持ちも持っております。頑張ってくださいね。

ニセコ町は、皆様ご存じのとおり観光と農業で発展した町でございます。最近では、パウダースノーを求めて、外国人の方がたくさん訪れ、そしてホテルやスキー場そういったものを賑わいの創出になっているというのが現状でございます。しかし、人手不足や住宅不足というような課題も抱えているというのが現状となっております。

またニセコの現状をあえて申しますと、良い事ではございますが人口5000人規模の町です。しかし、よその町では、少子高齢化だとか、そういったことで人口が減ってきていますが、人口の減らない町として、珍しいところなんだよということを認識していただきたいなと思います。

また、6人に1人は外国人だというようなことも頭に入れていただければ、色々と役立つのではないかなと思ってます。

今日は子ども議会ということで、皆様方いろんなご意見、疑問をお持ちだと思います。

なるべく大きな声で自分の言葉でしっかりと質問されることを望んでおります。

皆様方は、この町の将来のニセコを担う大事な宝物でございます。

しっかりと今後も、勉強に力を入れて活躍されることを祈念申し上げて、私からの挨拶いたします。本日はよろしくお願いいたします。

2. 子ども議会議長・副議長・議員の紹介

議長：ニセコ小学校6年 小口 雄正

副議長：ニセコ小学校6年 岡田 美乃里

議員：ニセコ小学校6年 佐藤 茉里花

ニセコ小学校6年 西口 陽樹

ニセコ小学校6年 高橋 風輝

インターナショナルスクール5年 山口 慧
インターナショナルスクール5年 津毛 天晴
ニセコ小学校6年 二瓶 彩来
近藤小学校5年 村松 律佳
近藤小学校5年 千葉 さら花
近藤小学校5年 尾尻 春花

※インターナショナルスクール6年 長谷川愛和さんは家庭の事情により欠席のため後日書面にて回答

3. 町への提案事項について

(1) ニセコ小学校6年 岡田 美乃里 『中学校の部活を増やしてほしいこと』について

岡田議員：今バスケをしていて、中学校にバスケ部がないことを聞いたので、バスケ部を増やしてほしいです。バスケ部だけではなくサッカー部など他の部活も増やしてほしいです。

学校教育課長：おはようございます。一番最初の質問でバスケ部という言葉聞いて、昔バスケ部の外部指導者をしていた1人として、ものすごく懐かしい気持ちになりました。

岡田議員の質問にお答えします。部活動というものを進めるには大切なことがあります。それは、練習場所で教えてくれる先生や外部指導者、そして一番大事なのは、継続して続けて部員が入ってくるっていう部分が一番大事かと思います。

先ほどもちょっと言いましたが、中学校では過去にバスケットボール部も活動していました。ただ、残念ながら部員が少なくなって、大会に出ることがなくなったこともあって、廃部となった経過があります。

次に場所、運動系の部活について、今のところは外も含めて4種類、室内競技では3種類あります。部活動は、今中学校の体育館だけでは足りなくて、総合体育館なども使って、皆さん一緒に一生懸命練習してます。もしこれで新しい部活動が増えるということになれば、今活動している部活動にも少し我慢してくださいというお願いもしなければなりません。学校で、バスケットボールやサッカーなどを教える先生がいるかどうかもあるのですが、まずは部員の確保や練習場所、指導してくれる先生、先生が教えられない場合の外部指導者の確保などたくさんの課題もあるので、現状では部活動を新たに増やすことが出来ない状態です。

私からの回答は以上となります。

生涯学習課長：岡田議員とても大切な質問してくれてありがとうございます。

バスケットボールを中学校になっても続けたいなというふうに思ってる気持ち、それから、バスケットボール以外にもサッカーをやってみたいという気持ちがとても伝わってくる質問でした。今、学校教育課中川課長の回答を聞いて、もしかしたら、部活動が増やせませんという話だったので、岡田議員は残念だなという風に思ったかもしれません。

ただ一方で教育委員会では、皆さんがよりスポーツに楽しみ、親しめるような環境づくりを目指すプロジェクトを進めているので、そのことを少し私の方から補足で紹介したいと思います。

実は今、ニセコ町だけではなく全国どこでもそうなっていますが、学校で生徒だけが集まって部活動をやるという形から、地域の人と一緒にみんなでスポーツをやったり、文化活動をするという仕組みに変えようという動きをしています。これを部活動の地域移行とか地域展開という風に呼んでいます。

どうしてこういうふうに仕組みを変えようとしているのかというと、先ほど中川課長が答えたように、教える先生がいるのかどうかということですとか、練習する場所、体育館の大きさにも限りがあるということがあって、部活動だけでやるとどうしても種類が少なくなってしまう。地域の皆さんと協力して、例えばスポーツクラブをつくれば、バスケットボールやサッカーっていうのはもちろんなんですけれども、学校にはなかったような新しいスポーツの活動もできるようになるかもしれません。こういう風にする事で、皆さんにもっと学校の部活だけから選ぶということではなく、たくさんの種類の中から自分の好きなものを見つけられる、そういった社会に変えていきたいなという風に思っているからです。

ただ、このプロジェクトの実現には、いろんな課題もあります。それですぐに、どんなスポーツでもできるようになるかという、ちょっと時間がかかるかなと思っています。その間は、岡田議員も月曜日と木曜日、総合体育館でバスケットボールをしていると思いますけれども、そういった活動に引き続き、参加して欲しいなという風に思っています。私たちも、この準備をしっかり進めていきます。夏休み明けには、皆さんがどんなスポーツをやりたいか、どんな文化活動やりたいかというアンケートを、小学生の皆さんも含めて取らせてもらいたいという風に思っていますので、ぜひ皆さんの希望を聞かせてもらいたいなという風に思っています。

皆さんが自分の好きなことにしっかり取り組めるように、私たちも頑張っていくしますので、よろしくお願いします。質問ありがとうございました。

小口議長：再質問はあるか

岡田議員：とくになし

教育長：岡田議員、部活動を増やしたいという質問ありがとうございました。

その気持ちはしっかり私も受けとめました。今、お2人の課長さんが答えてくれたように、これから解決しなければいけない課題がたくさんあるということが少しお分かりになったのではないかと思います。今の課長さんの回答を改めて考えてみてもらって、その上で岡田議員としてもこうしたら良いんじゃないかという次のアイデアを考えてみると良いのではないかなと思います。ご質問ありがとうございました。

（2）ニセコ小学校6年 佐藤 茉里花 『スキー学習』について

佐藤議員：学校のスキー学習でスノーボードも選べるようにしてほしいです。

理由は、スキー板を持っていない人がいたり、スキーが苦手な人が無理してスキーをしなくていいので選べるようにしてほしいです。

学校教育課長：ご質問ありがとうございます。佐藤議員のご質問にお答えいたします。

今のスキー授業についてですが先生やスキー連盟、手伝ってくれる保護者の皆さん、ボランティアという形で手伝ってもらっている方のたくさんの大人のサポートがあってやっと出来ているのが現状です。なぜかという、最近、スキー授業する時期は当然ながら、観光客の方々が来て、たくさんスキー場にお客さんが来てます。当然その人たちも上手い人や下手な人それぞれで、いきなりゲレンデで座り込む人などたくさんいるので、そういう人達から皆さんを守るために、大人の人をたくさんつけてスキー授業を手伝ってもらっているというのが現状です。スノーボードを選べるようにして欲しいということですが、スキーとスノーボードをやるという形では、滑り方や動き方が違うということで、スキー授業としては今までの分け方とは別にもう1つグループを作らなきゃいけなかったり、先生やインストラクター、サポートの方々も同様に増やさなければならないということがあります。学校や学校の先生に相談したり、教育委員会や、スキー連盟、あと保護者の皆さんなど、色々な人にサポートのお願いをした結果がスキー学習という形になってます。委員会としても、手伝ってくれているスタッフの方やスキー連盟の人数をなんとか確保してスキー授業をやれているという風に考えています。これ以上、連盟の人をお願いするということは見込めないという風に考えていますので、言いづらいですけども、スキースノボの選択制については、難しいと考えています。以上です。

小口議長：再質問はあるか

佐藤議員：とくになし

教育長：佐藤議員、スノーボードも選べるようにしたいという気持ちや苦手な人のことも考えた上での質問、その気持ちしっかり受け止めました。ありがとうございます。今課長さんが答えたようになかなかスノーボード難しいですね。学校の授業ではスキー学習という風になっているのには、課長さんが答えてくれたようにたくさんの理由があったと思います。その中で、一生懸命ニセコではスキー学習をずっと続けているということなので、その点については理解してほしいなと思います。ここで少し考え方を変えてみて、佐藤議員ご自身も含めてスノーボードも好きだけどスキーも頑張ってみよう、チャレンジしてみようという風に少し気持ちを切り替えたりお友達にも声をかけてみたりしてみると、少しご自身の考え方も変わるかもしれません。そういったことも考えてみてはいかがでしょうか。質問ありがとうございました。

（3）ニセコ小学校6年 西口 陽樹 『町民プールの改修について』

西口議員：去年の質問の時に「直すのが難しい」と言われましたが、町民プールの質問は毎年出ている質問なのでみんなが思っていることだと思います。何とかして修理を考えてもらうことはできませんか？

生涯学習課長：今年もプールの質問をしてくれてありがとうございます。

過去の質問を少し何年か振り返って見たら、令和2年令和3年令和4年、令和5年、

令和6年だけでなく令和7年っていうことで、ずっとプールの質問をいただきます。本当にありがとうございます。

毎年のようにこういうプールの質問が出るっていうことは、それだけ皆さんがプールのことを大切だという風に思ってる証拠なのかなと思います。何とかして欲しいなという皆さんの気持ちをまずしっかり受けとめたいと思います。その上で実は、皆さんからのプールの話を受けて、町長も私も改めてプールに行ってきました。

端から端までよく見てきたんですけれども、その時、大人の目から見ると確かに古くはなってるけれども、まだ十分使えるかなあという風に感じたのが私の正直な感想でした。ということは、大人が感じるまだ大丈夫使えるっていう気持ちと、子どもの皆さんが感じる綺麗だとか使いやすいついていうところには、大きな違いがあるのかもしれない。皆さんが不便だなっていう風に思ったり、嫌だなあという風に思ったりしてる部分が、もししっかりと把握できてなかったとしたら、申し訳なかったなという風に思います。1点、皆さんにご理解いただきたいという風に思うのは、プールを全部建て替えて新しく建てるっていうことには、おそらく、10億円では済まない10億円20億円というようなお金が、すごく大きなお金がかかります。町には他にも直さなければいけないような建物ですとか、道路ですとかそういったこともあるので、プールを今すぐ建て替えるというのは、残念ながら、ちょっと約束できる状況ではありません。でも、だから何もしないということではないと思っています。ここを少し直せば、もっと気持ちよく使えるようになるっていう工夫はできるかなあという風に思っていますので、プールのどこが使いにくいのか、どこが嫌だなあと思っているのか少し具体的に気になっているところを、私たちに教えてもらいたいと思います。皆さんのそういった具体的な声を聞いて、大きなお金をかけないで今すぐできる修理ですとか、工夫を一緒に考えて実行していきたいと思っています。皆さんが少しでもプールを気持ちよく使えるように、西口議員もぜひ力を貸していただけたらなと思いますので、よろしくお願いします。以上です。

西口議長：再質問はあるか

西口議員：とくになし

教育長：西口議員、町民プールを何とかしたいという気持ちしっかり受け止めました。

これはさっき課長さんが言ってくれたように、子ども議員の皆さんがずっと歴代にわたって、何回も出た質問で今日この後もう1つ質問がありますけれども、それだけ皆さんにとっては、大事な町の課題、問題という風に私も受けとめています。

課長さんが答えてくれたように、プール全体をすぐ新しくするっていうことはできないかもしれませんが、西口議員も修理など考えてもらいたいということで、私たちも常日頃から考えています。そして、直せるところは、ちょこちょこ直せるようにしてきています。さっき課長さんからこれからはアイデア出してもらいたいというお話があったので、ぜひこれからはよりよく直したり使いやすくするために、アイデアを出してもらえればなと思います。よろしくお願いします。質問ありがとうございました。

(4) ニセコ小学校6年 高橋 風輝 『お金の集め方』について

高橋議員：ニセコ町のイベントや建物を作るためにお金が必要だと思います。

お金を集めるためにどのような取り組みをしているのでしょうか？

総務課長：高橋議員、今日のご質問ありがとうございます。

ご質問にありますように、ニセコ町がイベントを開催したり新しい建物を作ったりするためにはたくさんのお金が必要になります。そのお金をどのように準備しているか、大きく分けて4つの方法があるのでちょっと説明したいと思います。

まず1つ目は、町民の皆さんが納めていただく税金というのがあります。一番基本になる部分ですが、こちら皆さんが安心して暮らしていけるために、公平にご負担いただく会費みたいなそういったものになります。この貴重な税金を、まずは皆さんが楽しめるイベントや、便利な施設を立てたり、維持をしていったりするために活用させていただいているということになります。また参考にですが、税金っていうのはいろいろありまして、先ほど青羽議長さんからも色々話ありましたが、ニセコ町にはたくさんの観光客に来ていただいています。そこで、令和6年からニセコ町には宿泊税という制度ができてます。多くの観光客が快適に移動できたりとか、またニセコ町を美しく保つため綺麗に保つために活用するですとか、たくさん楽しんでいただくためのイベントを開催したりするために、町民の方の税金だけでそれを賄うのはやっぱ大変ですので、観光客の皆さんにも、少し応分のご負担をいただくという風をお願いしている制度になります。ニセコ町に泊まりに来た方にも税金を少し納めていただくそういう仕組みがあります。これによって、逆に町民の皆さんの交通の便が良くなったりとか、そういった恩恵を受けたりするというような仕組みになります。

2つ目は、国や北海道から補助金というのがあります。町だけで行うのが難しい大きな事業については、一定のルール の範囲内で、国や北海道から応援のお金というそういった補助金とありますが、そういったものを交付してもらうことがあります。

例えば、何かひとつ大きな建物を建てるときや大きなイベントをやるときに、そのお金の半分は国が出してくれます。それはすごく良いものなので、それなら公共的で便利なので、あったほうがいいねというので半分補助してくれるような制度があります。

皆さんから納めていただいた税金が元手になってるのですが、このような形でまた再び町に届けられて、皆さんがニセコ町で生活しやすくなるように、必要な新しい建物を作ったりイベントをする費用に充てられているという仕組みがあります。

3つ目は、いわゆる借金です。制度では起債という、ちょっと分かりづらいですが、借金という制度があります。新しい建物作るときは先ほどプールの話もありましたが、何十億円も大きなお金が必要になります。1度に払うのは大変なので、銀行などからお金を借りる借金、いわゆる起債という制度を使うのですが、これは何かお金がないからだとか、ただただ無駄遣いをするというような、ちょっとそういった意味の悪い借金ということではなくて、これから先ですね何十年も長く使う施設になります。

そういったものを作るときに、今いる世代の人たちの税金だけで、負担をいただいてそのお金を使い建物を建てるというのはやはり公平ではなくて、未来の世代の人たちと長く使っていくたびに、未来の世代の人たちと一緒にご負担いただく。それが、この起債という制度になります。ですので借金のお金を何年かけて返していくお金に対しても実はまた国から補助してもらえるとといった制度があるので、そういうのを上手に使っていくことで、町の皆さんのご負担を少なくして、建物とか道路とか橋をつくることができるという仕組みなので悪い意味の借金ということではなくて、こういう起債という仕組みがあるということです。

最後4つ目になりますけれども、寄付だとか民間の方たちの協力というのがあります。ふるさと納税とかそういった方の寄付だとか、あと民間企業の力をお借りすることもあります。これはいわゆるニセコ町のまちづくりだとか、こういった綺麗なニセコの町に協力をいただいて、町外にお住まいのニセコファンの方だとかの協力によって、例えば民間の方のまたアイデアだとか、そういったものもいただいたりしながら実質的に町の負担を減らして、限られた税金をまた有効に使うことができるという仕組みになります。

まとめますと、税金を大切に使いながら、国とか北海道から補助金で応援をしてもらいます。そして、未来の方たちとも一緒に分かち合う起債という仕組みと、さらに民間の方の新しい応援の輪を広げていくと。こういった4つを上手に使いながら、ニセコ町をより良くしようということで皆さんに頑張っているという状況になります。高橋議員が言ってくれたように、どういう風にお金を集めるかってのはすごく大事な視点だと思います。なので、これからもニセコの未来をどう作っていくか、一緒に考えていけたらという風に思いますので、これからもよろしくお願ひしたいと思います。素晴らしい質問ありがとうございました。以上になります。

小口議長：再質問はあるか

高橋議員：とくになし

町長：非常に興味深く大人も注目する質問だったこともあって、私からも補足させてください。税金はなかなか払いたくないと、後ろにいる親御さんたちは思ってるかもしれませんが、非常に大事なもので、貴重で大切なお金を私たち行政は預かって、それをいろんな分野のまちづくりに生かしていくということを日々やらせていただいております。ニセコ町は、先ほど議長からお話がありましたが、人口が今増えている町です。町としても、観光やその他の建設業だとかも含めて、その事業者や会社の数も増えています。ある意味、町が成長しているところも特徴です。

ですので、皆さんきっと今10歳12歳ぐらいの世代だと思いますが、10年前と比べると、ニセコ町は税収が倍になっています。今日本全体、北海道全体で見ると、どんどん少なくなっている中で、ニセコ町は大変ありがたいことに税金も金額も増えているということです。

ただ、すごく増えることはありがたいことですが、当然、かかるお金も増えてきています。子ども議員さんからもお話あった、なかなか私たちが遊ぶ場所がないなあとか、もっと学校でこういうことをやって欲しいなあというような、きっと皆さんが感じる声もありますが、これも税金あるいは先ほど課長からありましたが、いろんな国の制度だとかを使って、何とかやっているところがあります。当然皆さんはまだ子どもですので、税金を払うことはいらないと思いますが、きっと親御さんたち、あるいはおじいちゃんおばあちゃん、その他地域の大人たちが払ってこの町が成り立っているのですが、もしかしたら皆さん大人になったときには、納税をして町や北海道、国に税金を納めていただく立場になると思いますが、そうして、いろんな世代がしっかりと安心して暮らせるような取り組みを、税金というものを使って、世代を超えてつなげてやっているというところがありますので、私はぜひこの税金だけではなく、ふるさと納税というものも含めて、入ってくるお金を少しでも

増やししながらニセコ町のまちづくりに還元していきたいなという思いで日々やらせていただきますので、長くなりましたが補足をさせていただきました。

とても興味深く、大人もぱっと言われてドキッとするような質問ですばらしい着眼点だったと思います。引き続き応援していただければと思います。以上です。

(5) インターナショナルスクール5年 山口 慧

『町民センターと総合体育館の間の横断歩道に信号機をつけたいこと』について

山口議員：私が通っている HIS ニセコ校の1、2年生の子たちが毎回走って横断歩道を通っていて、もし車が止まってくれなければ危ないからです。また、私が HIS のバスに乗っているときに後ろから車がぶつかってきたこともあります。

この理由で町民センターと総合体育館の間に信号機を設置した方が良いと思います。

町民生活課長：山口議員の質問にお答えします。

通学路の安全を考えていただいていること、とても大切なことだと思っています。交通ルールでは、横断歩道を渡ろうとする人がいる場合は、車は一時停止をしなければいけないということで決まっています。しかし、残念なことにこのルールは完全に守られているというわけではありません。道路を使う、すべての人が周りに優しい気持ちを持って、安全な社会になればいいなという風に私も思っております。さて、町民センターと総合体育館の間の横断歩道についてですが、横断歩道は約20年前に設置されました。今はH I Sに通う皆さんや、ニセコ小学校に通う皆さんが登下校に使っています。また、町民センターを利用される方、総合体育館を利用される方も多くの方が使っていると思っています。新しく信号機を設置することについて、山口議員から質問があつて、改めて警察の方に聞きに行ってきました。警察の方とお話をしたところ、自動車の交通量が特に多いこと、近くに信号機がある場合は、その信号機とあとどのぐらい離れているかという距離のことなどいろいろな条件があつて、信号機が設置できるという風に決まっているそうです。今の信号機の場所、山口議員が設置して欲しいなと思う場所については、今の条件を考えると、なかなか難しい場所になるということで、警察の方から聞いております。ただ、信号機が設置できないということで、何もしなくていいのかということになりますが、それはこれからも皆さんが安心して、横断歩道を渡ることができるように、交通安全の旗を設置するなど、色々交通安全の啓発のために、これから私たちも考えていきたいと思っています。ご質問ありがとうございました。

小口議長：再質問はあるか

山口議員：とくになし

副町長：山口議員、質問ありがとうございました。

これまでもこのことについては、子ども議会で何度か質問が出ていたと思います。今新しい信号機をつけるということに関しては、この広い北海道の中で、毎年新しく信号機がつくのは、10基に満たないというのが、今の現状だそうです。ニセコ町も、今の山口議員のご指摘のとおり、あそこに信号機をつけて欲しいというお話はこれまでも続けてきましたが、今、課長が説明したように、なかなかすぐにはつかないというような現状があります。これはこれで受けとめざるを得ないのですが、そうは言ってもやっぱり危ないからつ

つけてほしいということのお願いは、これからもずっと続けていきます。

同時に、そう言うものの議員ご指摘のように、すぐ安全になるのが正しいという風な考え方は正しいと思いますが、信号機が明日すぐにつくとか来年、今年中につくとかっていうことではないので、粘り強くお願いはしていきますが、つくにしてもまだまだ時間がかかると思われます。課長が言ったように、いろんな方法が他にもあるので、まずは事故を起こさないことが一番の大事なことで、皆さんにも一生懸命事故を起こさないということの心構えを、ぜひしていただきたいと思います。信号機をつける努力はするけれどもすぐにはつかないので、その間だけでも皆さんには、あそこが危ないとこなんだということをもみんなでそれぞれ共有してもらって、例えば、手を挙げて渡るとか、みんなで気を付けながら対応していった欲しいなという風にお願ひです。

ご質問ありがとうございました。

(6) インターナショナルスクール5年 津毛 天晴 『ちびっこ広場にゴミ箱を設置すること』について

津毛議員：HIS でゴミ拾いをしたときに、ちびっこ広場の周辺のゴミが多いことが分かりました。

大体の公園はゴミ箱があるけどちびっこ広場にはないです。ゴミ箱を置くだけなら、一番予算が少なくできることだと思います。このゴミは、体育館にゴミ収集車を止めて、ゴミ回収の係の人がゴミを集めたら良いと思います。

都市建設課長：津毛議員のご質問にお答えいたします。

ちびっこ広場にゴミ箱を置いて欲しいというご質問ありがとうございました。町としてもちびっこ広場がゴミで汚れてしまうのは、それは、大きな問題だと思っています。ただ、広場にゴミ箱を置くと、自分の家から出たゴミを持ち込まれたり、カラスやキツネに荒らされたりして、かえって広場が汚れてしまう可能性があります。まず町としての方針は、ゴミを持ち帰るという方法で広場をきれいに保ちたいと考えています。前回も同じようなご質問を受けましたので、春先に広報では周知をさせていただいたのと、見回りを増やさせていただきましたが、私自身も実際に見に行きましたら、ベンチなど休憩する周りにゴミが放置されていることを確認できました。もう少し様子を見させていただいてそれでもゴミが減らない場合は、看板を設置するなど検討させていただきますので、もう少しお時間をいただければと思います。私からは以上です。

小口議長：再質問はあるか

津毛議員：とくになし

副町長：津毛議員、ご質問ありがとうございました。HIS の皆さんでゴミ拾いを、既にしてくれているということで本当にありがとうございます。ゴミ箱があれば便利だなと思うのは確かなのですが、今、課長からお話がかったように、ニセコ町の公園についてはゴミは持ち帰るということを基本にさせてもらっています。でも津毛議員がゴミ拾いをしてくれた時は、ゴミが散らかっていて結局は持ち帰らないで散らかしている人がいるということがご指摘だったと思います。きっと議員が皆さんと一緒にゴミ拾いをしてくれているという姿

を必ず誰かが見ていると思います。その姿を見ている人は、ゴミを捨てづらくなっていると思います。今もゴミは落ちているかもしれませんが、皆さんがそういう取り組みを続けてくれると、ここにはゴミを捨ててはいけないという気持ちやゴミは持って帰るんだという気持ちになり、少し難しい言葉で啓発というのですが、皆さんの取り組みがきっとみんなに伝わって少しずつここにはゴミを捨てないぞ、捨てたら恥ずかしいぞ、HISの皆さんに拾われちゃうんだぞと思うようになるとと思います。

これからもそういう気持ちを持ってゴミ拾いをしてくれたら嬉しいなと思います。ちなみにニセコ町では、年に2回クリーン作戦といって、全町のゴミ拾いをするために、ホテルの従業員さんとか町内会の人などみんなで集まってゴミ拾いをしています。残念ながらゴミはやはり毎回たくさん出てきます。それでもクリーン作戦をずっと続けているのは、ここにゴミを捨てないでね、私たちが拾っているんです、このきれいなニセコ町を汚さないでねというメッセージも込めてみんなで一生懸命拾っています。そのことは少しずつ伝わっていると思います。そのおかげで、ものすごく汚れた町にはなっていません。その気持ちを伝えていってほしいなと思いますし、皆さんの活動がとても心強くて誇りに思います。これからも、ここにゴミは捨てるなよという気持ちでゴミ拾いを続けていってほしいなと思います。ありがとうございました。

(小口議長から岡田副議長へ交代)

(7) ニセコ小学校6年 小口 雄正 『町民プール』について

小口議員：プールの中に虫やゴミがあったり、更衣室に虫などがいるのが気になります。虫やゴミを回収する機械を入れたり、更衣室に虫を寄せない何かをつけたいです。

生涯学習課長：小口議員、プールの質問ありがとうございます。そして今、前を向いてとても大きな声で私の方を見ながら質問してくれたことがとてもうれしかったです。ありがとうございます。

自分たちで解決の方法まで考えてくれて本当にありがとうございます。質問に答える前に1つ、お話したいなと思うことがあります。先週小口議員は、私たちと一緒に少年洋上セミナーで海水浴をしてきたと思います。その時、海には海藻だとか自然のゴミもたくさん浮いていました。私は、なぜ海だと海藻やごみが浮いててもあんなに楽しく泳げるのに、プールだと虫やゴミがあると嫌な気持ちになるのかなあという風に思っちょっと考えてみました。それで、ちょっとインターネットとかでも色々調べてみると、こんな答えがありました。プールは閉じられた狭い空間です。一方で、海はすごく広くて開放的な空間で泳ぐことができます。プールは狭いので、もしかすると虫と一緒に風呂に使ってるような感覚になっているんじゃないかなってことが書いてありました。確かに虫と一緒に風呂に入ってるって言ったら嫌だよなあという風に思ったので、ちょっとだけ紹介させてもらいたいと思います。

このことを踏まえて、小口議員が提案してくれたことのお答えをしたいと思います。まずプールの中のゴミについてです。プールは海のように広くないので、水の中にバイ菌だとかそういうものが入らないようにしっかりと水質検査をしています。

ですので、まず安心して泳いでください。その上で、実はプールにはゴミを集める機械というものが設置してあります。プールに虫やゴミがたくさんあったときにはその機械を使ってしっかり清掃するようにしたいと思います。ただ、少し虫やゴミが浮いてるときにはその機械を使うのは難しいので、遠慮せずにプールの管理人さんに声をかけてください。管理人の人がすくに行きたいという風に思います。次に、更衣室の虫についてです。こちらも提案してくれたとおり、早速更衣室に虫よけを置いてみたいと思います。どんな虫が気になってるのか、後で教えてください。換気のために窓を開けたりすることもあるので、虫をゼロにすることは難しいかもしれませんが、少しでも皆さんが安心して着替えられるように工夫をしていきたいと思います。プールは町みんなのもので、これからもみんなで協力して、気持ちよく使えるようにしていきたいと思います。質問ありがとうございました。

岡田副議長：再質問はあるか

小口議員：とくになし

教育長：小口議員、プールを綺麗に使いたいという思い、私もしっかり受けとめました。同感です。さらに、具体的な提案をしていただいて本当にありがとうございます。我々も参考になります。プールについては先ほど西口議員も質問してくれましたけれども、みんな何とかしたいとやっぱり思ってます。私たちも大切な町民プールであり町の大切な施設財産です。これをいつも綺麗にしようと頑張ってます。今課長さんが答えてくれたように、私たちも今この状態の中で、今できることを一生懸命やろうということでベストを尽くしているつもりです。これからもそうしていきたいと思ってますのでよろしくお願いします。質問ありがとうございました。

（８）ニセコ小学校６年 二瓶 彩来 『中学校の文化部を増やしてほしいこと』について

二瓶議員：茶道をしてみたいけど習えるところがなくて、来年から通うニセコ中学校に文化部がなくて入りたいのがないので、文化部を増やしてほしいです。

学校教育課長：二瓶議員のご質問にお答えします。

質問の内容としては、文化系の部活動を増やしてほしいということと、茶道を習ってみたいという質問だと思うので、私の方では部活動を増やしてほしいという部分のご質問にお答えしたいと思います。確かに、今中学校文化系の部活動は、音楽部と美術部しかありません。音楽部は、昔吹奏楽部と合唱部っていうのがあったのですが、それを１つにして、もっといろんなことを音楽系のやつができるかなという形で１つになったという話を、中学校の方から聞いています。二瓶議員が、文化系の部活でどんなことをしたいのかっていう部分が分からないのですが、まずはそういう部分、やりたい文化系のものを教えてくれる指導者がいるのかとか、部員が何人集まってくるのか、場所は確保できるのかなど課題の部分もあります。岡田議員の

ときにもご回答させていただきましたが、現状では部活動を増やすことができない状態になってます。これから文化系サークルのことや地域クラブの話は、生涯学習課長が話してくれると思いますので、私の方の回答は以上となります。

生涯学習課長：私の方から、もう少し補足をしたいと思います。

二瓶議員、日本の伝統文化の茶道に興味を持っていただき、そして中学校の文化部も増やしたいという素敵な質問をしていただきありがとうございます。

確かに、今学校教育課長が答えたとおり、中学校の文化部には音楽と美術しかありません。岡田議員のスポーツの質問でもお答えしたように、中学校の部活動を増やすというのは難しいという話でしたが、学校内だけではなくて、町全体に目を向けるとその解決のヒントがあるのではないかなという風に思っています。まず二セコ町内には、本格的に茶道っていうのを教えてくれる先生がいらっしゃいます。ですので、習い事としてしっかり習うことはできます。それから、町には文化協会という団体があって、そこでは短歌、俳句、写真、囲碁、太鼓、ダンス、日本舞踊、お琴やオーケストラなど本当にたくさんのグループが活動をしています。

これからは、学校の中で中学校の生徒だけが集まって活動するのではなく、こうした地域の先生や文化活動を楽しんでいる地域の方々と、子どもたちが一緒に活動でできるような仕組みを作っていきたいなという風に考えています。

そうすることで、先ほどスポーツのときでもお話したのと同じになりますが、学校の部活にはない、もっとたくさんの種類の中から自分の好きなことを選べるようになるのではないかなという風に思っています。ただ、いきなり大人の人と一緒にサークルに入って活動するのはちょっとドキドキするかもしれません。

そこで教育委員会では、皆さんがまずはちょっとだけ試してみたいなどそういった気持ちに答えられるように、体験事業というものをこれから考えていきたいと思います。二瓶議員も、去年茶道体験教室をやったときに参加していたかなと思います。それで、もしかしたら茶道に興味を持ったのかもしれませんが。そうした体験教室などにも参加しながら、自分の興味関心っていうものを広げて見つけてもらえたらなという風に思います。二瓶議員が中学校に行ってそして大人になっても、好きな文化活動が思いっきりできるような町でありたいと思いますので、私たちも色々な取り組みを進めていきます。素晴らしい質問をありがとうございました。

岡田副議長：再質問はあるか

二瓶議員：とくになし

教育長：二瓶議員、文化部を増やしてほしいという思い、受けとめましたありがとうございます。

先ほど岡田議員も質問してくれましたが、文化部も運動部と一緒にたくさんあって選べると良いですね。今2人の課長さんからそれぞれお答えしてもらったように、中学校だけではやっぱり難しいという状態です。ですが、同時に今私たちも町全体に目を向けて、地域の方々の力にも目を向けて、何ができるか、どうしたら良いかということも考えております。お試し体験などそういった中ではあるようですので、二瓶議員も引き続き、また参

加してみたらどうでしょうか。質問ありがとうございます。

(9) 近藤小学校 5 年 村松 律佳 『ニセコ町全体の遊び場について』

村松議員：ニセコ町全体の遊び場は、小さい子が遊んでいることが多いので、高学年が遊べないところがあるのと、小さい子用の遊び場が多いので高学年も楽しめるようなところを増やしてほしいです。

こども未来課長：ご質問ありがとうございます。

きっと村松議員はじめ高学年の皆さんは、小さい子が遊んでたら譲ってくれているんだろうと思います。いつもありがとうございます。

高学年にとっての遊び場や楽しめる場所というのはどんなところでしょうか。公園とかのイメージでいうとちょっと難しいようなアスレチックがあるような、例えばニセコビレッジのピュアみたいな場所なのかもしれませんが、もう少し幅広く考えてみていただき、最近では学校が終わってから遊ぶような居場所、子どもの居場所などという呼び方をするのですが、その居場所に必要と言われてる機能をちょっと 4 つご紹介したいと思います。

1 つ目は、思い切り体を動かせる場所です。ボール遊びですとかスポーツができる空間体育館などがイメージしやすいと思いますがそういう場所があります。

2 つ目は、友達と集まっておしゃべりできる場所です。何かをして遊ぶだけではなく、ただ友達と座って笑い合っているような場所で、ベンチとかテーブルがあるような空間です。

3 つ目は、自分たちが自由に過ごせる場所です。大人にあれをやっちゃ駄目とかこれをやっちゃ駄目と言われなくて、自分たちだけでルール作っていられるような場所です。

4 つ目はホッと一息つけるような場所です。元気に遊ぶだけじゃなくて、1 人でもゆっくり過ごすような場所です。今伝えた場所というのはこのようなことで整理して考えているところです。

このような場所というのは、村松議員のご指摘のとおりニセコ町内では少ないのかなと思いますし、特に冬は公園が使えなくなるので十分にあるとは考えていません。今役場では、あそぶっくや町民センターなど施設が古くなってきているので、今後建物をどうするかというのをちょうど検討始めたところです。今すぐにこうするということはまだ言えないですが、皆さんの居場所の確保について、これからしっかり考えていきたいという風に考えています。皆さんにとって良い場所というのと、大人たちが考える良い場所というのが少し違うところが出てくるかもしれません。なので、こんなことができるといいなとかこんな場所が欲しいなっていうアイデアがもしあれば、ぜひ教えていただきたいなという風に考えていますのでよろしくお願いします。

岡田副議長：再質問はあるか

村松議員：とくになし

教育長：村松議員、高学年の遊び場や居場所を増やしたいという思い、私も受けとめました。

課長さんが答えてくれたとおり、いわゆる皆さんが過ごす場所や放課後の居場所というような言い方をしましたけれども、こういった居場所が、私もニセコにはまだまだ必要だと思います。どこへ行ったらいいかわからないなどいろんな気持ちになることもあります。それから、一人で過ごしたいという気持ちやみんなと仲良く過ごしたいという気持ち、それぞれ思ったときにどういったところで過ごせるのかなどこういったことをやっぱり思うことは子どもの皆さんもあるんじゃないかなと思います。そうした居場所が、これからも増えるといいかなと私も思っています。

今役場では、あそぶっくですとか町民センターとか、こういった古くなってきた建物の将来をどうしようかということに合わせて、今検討をどうしていこうかという方向性を考え始めたところです。これに合わせて、子どもの皆さんの居場所も併せて何とかできないかということも一緒に考え始めたところです。こうしたことも含めて、役場としても頑張っ

て考えていこうと思っていますので、今すぐ増やしたりとか、実現できないかもしれませんが、村松議員も、自分の家や他に過ごしたい場所について、家以外で過ごせる場所について、また別のアイデアがありましたらお聞かせいただきたいと思います。ご質問ありがとうございました。

町 長：子どもの遊び場ということで、私たちもまだまだ足りてないと思っています。

先ほど私も答弁申し上げましたが、子どもの数もありがたいことに、今ニセコ町としては増えているということも踏まえて、町としてしっかりと整備をしていきたいと思っています。

1つ教育長からもありました、古くなった建物を今後どうするかということについても、今まさに着手始めたところです。もう1つの考え方として、例えば旧宮田小学校の体育館では、今スケートボードパークということで、町としては無償で貸し出しをするという形で応援をしていますけれども、そこでバスケットができるような施設を運営をしてもらっているいます。そういう場所を、何とか作っているというところが今の取り組みとしています。なかなか郊外になると、子どもが1人で行くにはハードルがあるので、バスや車を出せるかということも課題としてはあるのですが、その他の町で持っている施設を有効活用できないかということも、今地域の事業者の方や役場の中で知恵を出して、何か子どもだけに限らず有効活用できないかなということを今検討している段階ですので、また改めてその検討段階が、先ほどのあそぶっくとか町民センターの複合施設の話も含めて、また皆さんにもお話を聞く機会もあると思いますので、ぜひ私たちはこう考える、こうしたいという思いを大人たちに教えていただければなという風に思います。ご質問ありがとうございました。

(10) 近藤小学校5年 千葉 さら花 『ちびっこ広場の遊具について』

千葉議員：ちびっこ広場は小さい子用の遊具が多くて高学年が楽しめる遊具がないので、高学年でも楽しめる遊具を作ってほしいです。

都市建設課長：千葉議員のご質問にお答えいたします。

ちびっこ広場はその名前のとおり、もともと小さなお子さん向けの公園として設置されました。確かに、高学年の人遊ぶには非常に物足りないかと思っています。もし、高学年向けの遊具を設置して小さなお子さんと高学年の人が同じスペースで遊ぶとなると、小さなお子さんがけがをしたという事例もありますので、安全面を考えると別のスペースに遊具を設置することが必要になります。今後、公園全体の整備を進めていく中で、高学年の皆さんが安心して遊べるような場所を確保するか、どのような遊具を設置するか検討していきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。ご質問ありがとうございました。

岡田副議長：再質問はあるか

千葉議員：とくになし

町 長：ただいまの質疑の補足いたします。

この質問も何度も子ども議会で皆さんたちの議員の先輩方から、高学年の遊び場がないという先ほどの質問と一緒に、ちびっこ広場の遊具をもう少し高学年向けにも遊具を設置してもらえないかなあという声は、ひしひしと受けとめている段階ではあります。

先ほど担当の課長から、スペースが危ないということがありましたが、1つのアイデアとして、皆さんちびっこ広場に行ったことあると思うんですけど、自転車のサーキットのようにコースになってる場所があると思いますが、例えばそこを少し別の形に工事をさせていただいて、そこに小さな子どもたち向けの今ある遊具と距離を離して、高学年向けの遊具を設置できないかということを、実は担当の建設課と議論を重ねております。

この場で決まるということではないですが、先ほどの質問も含めてやはり子どもは、小さな小学生低学年や乳幼児だけではなく、今日来ている皆さんのような小学校高学年、そして中学生高校生といいますけども、高学年の人たちが遊べるようなそういう施設を是非とも進めていきたいと私は考えていますので、あまり言いすぎると担当課長からちょっと言い過ぎだと怒られるかもしれませんが、今年はちびっこ広場に水の遊び場欲しいなということで、長年これもいろんな事情で進んでいなかったのを、今年ようやく工事を進めて、夏には間に合わないのを、来年から水の遊び場を使えるように進めさせていただいているのですが、この高学年向けの遊具ということについても、例えばそのサーキットの部分に少し遊具を置かせていただいて、高学年の子たちも安心して遊べるようなちびっこ広場という公園の名前ももしかしたら変えないといけないかもしれませんが、出来たらなという風に思っています。ただ、やっぱりこの子ども議会で皆さんせっかくの貴重な夏休みに出席いただいておりますので、私たちも真摯に出てきた意見に耳を傾けて、どうしたら前に進めるかなというものを、1つずつ考えていきたいという風に思っております。

建設課長からも補足いただければと思います。

都市建設課長：私の方から補足させていただきます。

先ほどの休憩時間にも町長から熱い要望があったので、なるべく早くやっていきたいとは思いますが、これはちょっと言い訳になるかと思いますが、もし今年進め

るとした場合、これから現地調査入ってどれぐらい工事費かかるのか、あと遊具はどのようなものを設置するのかとかいう問題もあるので、遊具の数、何を作るかに関しては、実は以前にアンケートを調査したものがあるので、それをもとに設置を考えようと思います。その辺のところは、ひょっとするとのちほど千葉議員の方にちょっと伺って、このようなものがあるかどうかというのもちょうと確認をさせていただきたいと思っております。

もし仮に今年何としてもやるといった場合、これもちょうと大人の都合になりますが、今世界で戦争等行なわれている関係で、今年遊具を発注しても今年中には遊具が届かないという場合もありますので、全力で早く進めていきますが、少しお時間をいただけたらと思っております。私からは以上です。

(11) 近藤小学校5年 尾尻 春花 『歩道』について

尾尻議員：家の近くの羊蹄近藤連絡線に歩道をつけてほしいです。

理由は、水を汲みに行くときや友達の家歩いて行くときに大きい車やスピードを出している車が多くて、危なくて行けないからです。

都市建設課長：尾尻議員のご質問にお答えいたします。

羊蹄近藤連絡線については、トラックの往来が非常に多く交通量も多いということでは歩行者にとっては危険な道路だというのは、町でも認識しております。実は以前から歩道計画について立てておりまして、近藤小学校側の道道66号、岩内洞爺線から国道5号線まで3.2キロあるのですが、そちらを計画しております。平成22年から実は工事を道道側から始めていて、令和8年度現在では半分もいかない約1.3キロの歩道工事が終わっております。

この歩道整備につきましては、町単独でやると工事費が非常に高いので、国から60%補助をしてもらっています。最近要望を上げてはいますが、国の査定が厳しくてなかなか補助金をつけてもらえず、現在は事業が進んでいない状況となっております。非常にご迷惑をおかけしておりますが、国の方には粘り強く要望を上げていきますので、どうぞご理解くださいますようお願いいたします。

ご質問ありがとうございました。

岡田副議長：再質問はあるか

尾尻議員：とくになし

山本副町長：尾尻議員、ご質問ありがとうございます。

自分の生活の中で危険だと思うところを、きっちりと認識してご指摘いただいたということは大変心強いですし、ありがたいなと思います。気が付く視点っていうのがすごく大事なことだなという風に思います。

先ほどの話と私が話した内容と少し被るかもしれませんが、あそこの場所はいわゆる道道と言って、あそこの道路を作るのにも、国から様々な支援をもらって実施すると

ということになっていまして、町のお金だけではなかなか進められないという事情があります。なので、粘り強く交渉をしながら、少しでも早くお金を獲得して、皆さんご要望の通りの歩道を、少しでも早く実施していきたいと思いこれからも進めていきます。

これも先ほどと同様ですが、1ヶ月後に歩道ができるという状況でないのも確かです。なので、まずは皆さんに安全第一であるそこを気をつけてもらうことがどうしても必要になるので、慣れた道かもしれませんが、必ず車が来るといような想定と想像をもとに、まずは用心していただくということをくれぐれもお願いしたいと思います。町の方でも歩道付ける以外のできることはさせていただきたいと思いますが、歩道がすぐつくという状況にはやはりならないのが現実ですので、くれぐれもまずは用心をしてくださいということをお願いいたします。ご質問ありがとうございました。

4. 閉会行事

(1) 教育長講評

教育長の加藤でございます。今日の講評をさせていただこうかと思います。皆さん本当にお疲れ様でした。そして、この夏休みの大切な期間に、こうした子ども議会の活動に参加してくれてありがとうございます。6月皆さんに子ども議会議員になってもらってから、これまで2回の打ち合わせ、それから昨日リハーサルも行っていました。こうして、難しい顔したたくさんの大人たちの前で質問するのもなかなか大変なことで、大人でも大変だなと思います。質問も一生懸命考えてもらって、よく頑張っていました。

今いる町民ホール、ここはニセコ町の大切な議会の、大人の議会の議場でもある大切な神聖な場所です。ここで立派に皆さん質問してくれました。ありがとうございます。

今日11名の議員さん、1名お休みということですが、皆さんしっかりと自分の考えをお話しすることができたのではないかなと思います。課長さん方からの答え、どうでしたか？なかなか、厳しい答えが多かったと思います。これは間違いなく言えることなのですが、こちらに座っている課長さん方も、大人の議会と同じように真剣にできないっていうことも含めて考えてくれました。その上で、こうしたらどうだろうと、こういったアイデアまで出してくれたと私は思ってます。

そこで私から1つお願いです。すぐにできるっていうことが難しいものもたくさんありましたのでその上でのお願いなんですけれども、質問してくれた様々なことは簡単に解決できないことばかりで、皆さん難しい質問多かったと思います。ですが、ご家族、お友達、学校の先生や地域の方たちみんなの意見をぜひ改めて聞いてください。どうしたらいいだろうかというのを相談してみてください。そして、自分の考えとちょっと違って、それを大切にしていって聞いてみてください。難しい言葉ですが、相手や他の人を尊重して一緒に考えて解決していくということを大切にしてほしいと思います。これはニセコのまちづくりにとって、とっても大事なことです。自分の考えと違って相手を馬鹿にしたりせずに、一緒になって考えていく、こうしたことをぜひ心がけて欲しいなと思います。

私たちの町は、有島武郎が残してくれた相互扶助という少し難しい4文字熟語があります。相互扶助、これを私たちの町は大切にしています。すなわち、自分の考えだけを通すのではなく、相手を尊重して共に考えて一緒に助け合って行動していこうということです。1つ1つ皆さんがしてくれた質問というのも、そこに解決の糸口があると思ってます。

終わりになりますが、この子ども議会は子どもの社会参加プログラムであります。この活動にご理解とご協力をいただきました、ご来賓の青羽議長様、そして、ご家庭の皆様、学校の方々、傍聴の皆様、本日はどうもありがとうございます。そして、本日の答弁に立ってくださった田中町長山本副町長はじめ、役場幹部職員の皆様、ありがとうございます。そして教育委員会のスタッフの皆様、ありがとうございます。以上で私からの講評を終わります。ありがとうございました。

(2) 閉会挨拶（田中町長）

大変お疲れ様でした。先ほど教育長からもありましたが、本当にこの本番だけでなく色々な準備を重ねてきたからこそ無事に終えられたと思います。ニセコ町は、子ども議会を皆さんが生まれる本当に昔から大事な取り組みとして継続して取り組んでいるところです。皆さんからすると、なかなかこういう機会なんかもう、去年で確かなあとか、私は恥ずかしいからいいやって思うかもしれませんが、この取り組みを、すべての町でやってるわけではありません。

本当に、子どもの教育成長機会っていう機会もそうですし、ニセコ町は、町民がみずからまちづくりに参加をするということを根づいた町ですので、その町民っていうのは大人たちだけでなく、子どもだってまちづくりに参画して意見を言ったり、声を届けたいということ尊重してきた経緯があるからだともう私は思っています。

ですのでこうした機会を、ぜひ人生の中での経験としてもらって、願わくば、ぜひ子ども議会議員出身の本物の議員さんや町長、役場職員になってもらう機会やきっかけにもなるとすごく町としても素晴らしいことだなと思っていますし、何より学校生活も夏休みが終わるとあっという間に折り返しだと思います。

卒業控えてる6年生、これから最高学年になる5年生がいると思いますけども、ぜひ友達との思い出づくり、そして学校生活楽しんで、ニセコ町での暮らしもぜひ楽しんでもらえたらなと思いますし、ニセコっていい町だなあと思ってもらえるように、私たち大人も一生懸命頑張りますので、一緒にこのニセコの町をより良くしていければと思います。

今日は長時間、お疲れ様でした。ありがとうございました。

(3) 記念写真撮影